

令和6年度 多摩市立東寺方小学校 学校評価書	
学校教育目標	
人権尊重の精神に基づき、知性・感性・道徳心や体力を育み調和のとれた豊かな人間性と自主的精神に満ちた子どもの育成を目指し以下の目標を設定する。 ○たくましい子 ○おもしろい子 ○かながえる子	
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
地域から信頼される子どもたちの夢が広がる学校 ～笑顔のあふれる学校～	
目指す子供像	目指す教師像
・心も身体もきたえ、明るくたくましい児童 ・自分も人も大切にしたい思いやりのある児童 ・粘り強く考え、主体的に学ぶ児童	・いじめをしない、させない指導を徹底する教師 ・児童理解に努め、率先して授業改善を図る教師 ・チームとして協働し、切磋琢磨し高め合う教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(Ⅰ) 確かな学力の育成

重点目標	・学習規律（寺小スタンダード）を基本にどの子もわかる楽しい授業を作る。 ・ESDの視点を踏まえた学びの推進、主体的に粘り強く取り組み課題を追究する力を育てる。		
評価項目 （目標とする成果・指標％）	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語
SDGs をふまえたESDを推進し、教員が各教科との関連性を考えた授業を展開する。（90％）	3	総合的な学習を中心に SDGsを踏まえ考える機会を設けたが、低学年は難しく身近なところから触れる工夫が必要であった。ESD カレンダーに沿って学習を計画的に進めていく。	B
基礎基本を定着させるために各学年の学期末漢字・計算テストの9割の回答率を達成する。（95％）	4	反復練習・朝学習の充実に努めドリル・ミライシードの活用により達成率を高めた。	A
読書指導の推進と言語能力の向上を目指す。（80％）	3	読書旬間の「うちどく」や宿題や音読に取り組む日常的に本を読む機会を増やした。読書の習慣化を目指していく。	B
1人1台のタブレットの活用を通して学習指導力の向上を図り、授業が楽しい、よくわかるとする児童を展開する。（90％）	4	積極的にタブレットを活用し子供の意欲を高めることができた。今後もメリットを意識して効果的に学習を展開していく。	A
評価のまとめ	・SDGsを踏まえた ESD の推進は今後も身近なところから触れる学習を大事に取り組んでいく。 ・基礎学力の定着を目指し、ドリルの繰り返しやミライシードの活用により今後も達成率を高めていく。 ・読書の取組は来年度も継続し、新たな取組や工夫を入れ、自発的に読書を行えるよう読書の啓発に力を入れていく。 ・タブレットを有効的に活用し、分かりやすく、より楽しい授業になるよう今後も授業展開していく。		

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	・いじめを許さない、困難に負けない心を育て、いじめ・不登校を防止する。 ・考え議論する道徳授業の充実を図り、正しい判断と行動を実践する児童を育成する。			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
自他ともに大切に、友達と仲良く学校生活を送れる児童を育成する。（90％）	3	友だちを大切に仲良く過ごしたという児童評価が94.9％であった。適切な働きかけをすすめ自他の個性を認め尊重する指導をしていく。	A	・多くの友達作りが、楽しい学校生活・子供の成長に繋がる。 ・来校すると明るくのびのびしていて活気があると感じる。登下校の際いつも笑顔で挨拶していると地域から声をいただいている。 ・子供同士のトラブルは常にあると思うがすぐに解決に向かうよう先生方が動いてくれている。いじめに関しては残りの5％の子供の意見を知りたい。
明るい挨拶ができ、笑顔で生活できる児童を育成する。（90％）	4	明るいあいさつができるとする児童評価が93.3％。笑顔で生活できる児童が94.7％。担任も手本を示し声の小さい子への働きかけをしていく。	A	
いじめを許さない、いじめを生まないことを基本に、いじめのない学校づくりを推進する。（95％）	3	いじめたりいじめられたりしないとする児童評価が94.9％。保護者が92.6％。いじめを許さない姿勢を貫き違いを認め合える学校作りを推進していく。	B	
評価のまとめ	・友達を大切に仲良く過ごしている児童が多いが、増える不登校児童への支援を個に対応し行う必要がある。 ・明るい挨拶は、高学年の姿勢が学校全体の良き手本となっている。 ・いじめ授業の実施によりいじめを生まない、許さない姿勢を貫き、いじめは初期段階で見つけ指導する姿勢を推進する。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	・たくましく生きるための「健康と安全」「体力の向上」を図る。 ・最善を尽くす意欲と態度を育み、自己肯定感をもたせる。			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
基礎体力の向上を図り、自ら進んで健康の増進と体力向上に努める子を養い、休み時間の外遊びをよくする子を育成する。（85％）	3	外遊びをよくしたとする児童は85.5％、丈夫な体づくりをしているとする保護者評価は80.5％。なわとびやマラソンの取組に90.4％の児童が取り組んでいる。運動への意欲を高める授業展開をしていく。	B	・先生と元気に外遊びをする児童を見たり自宅で縄跳びをしている姿を見かけたりするにつき、体力向上に努めていると感じる。暑い日が多くなることを想定した取組が必要。 ・たて割り班活動等を通し児童の心の成長を育んでいるとする保護者評価は95.6％となりくじけてしまう子への個別支援は課題だが成果としてはよい。 ・障がい理解教育のさらなる向上を図ることが重要である。
心身の調和のとれた行事に取り組む姿勢の強化とくじけない心の育成を図る。（85％）	3	たて割班活動やクラブ・委員会等に粘り強く最後まで取り組ませていく。困難から逃げる子、くじける子への支援が個に応じて必要である。	B	
オリパラ教育「2020 レガシー」の継承・指導の充実と計画的な取組を実施し児童の満足度を高める。（90％）	3	オリパラ教育継承による障がい理解教育は、総合的な学習を通して取り組んだ学年もあるが、年間を通して計画的に推進できなかった。	B	
評価のまとめ	・中休みは外で遊ぶことは定着しつつあるが、出たがらない子供への工夫を図っていく必要がある。 ・たくましく粘り強い子を育てるため、たてわり班や縄跳び・マラソン等の取組に前向きに取り組めるよう個に応じた支援していく。 ・オリパラ教育継承・指導について、障がい理解授業や体育的授業を計画的に実施していく。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	・信頼される学校をめざし、HPや学校便り等で教育活動を積極的に情報発信する。 ・地域に根ざした学校としての価値を高め地域に開かれ地域と共にある学校づくりを進める。			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
わが子が、笑顔で学校生活を送れていると満足する保護者が90%以上とする。	3	学校生活を笑顔で送れているとする保護者評価は91.8%と概ね達成できているが不登校児童への個々の対応は今後も丁寧に行い、支援していく。	A	・生き生きと生活している子供が多く活気を感じるが、不登校の子供たちへの関わりを今後も考えていく事が大事である。
「コミュニティ・スクール」として「地域に開かれた、地域と共にある学校作り」の推進を図る。(90%)	3	出来る限り地域行事に参加し、地域とコミュニケーションを図りたい。学校ホームページや通信等で学校の様子を地域・保護者に発信し開かれた学校を推進する。	A	・コミュニティ・スクールの推進が地域との共生になる。地域人材をさらに活用した開かれた学校づくりを進めてほしい。
地域連携コーディネーターを中心に、保護者や地域人材と協働した教育活動を展開する学習支援を推進していく。(90%)	3	保護者や地域の方を招いた授業などに積極的に取り組んだとする保護者評価が93.4%。今後も地域人材と協働した活動を多く取り入れる。	A	・地域行事に学校側も協力的であると感じる。地域や関係機関の協力体制が今後も重要である。
評価のまとめ	・今後も特別活動の充実を図り、教育活動の情報発信をこまめに行い、子供たちの様子を地域や保護者に発信していく。・学校運営協議会と地域を中心に、積極的にコミュニケーションをとっていく事で、開かれた学校作りを推進する。・今後も、地域の学習・朝読み・昔遊び等、保護者や地域の人材を活かした活動を実施し、さらなる工夫と充実を図っていく。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<令和7年度の方向性について> - コミュニティ・スクールとして、さらなる学校運営協議会のメンバー拡充を目指す。また、学運協の活動の様子を保護者へ周知徹底し、地域人材の有効的な活用について三位一体となって協働できるようにしていく。 - たくましい児童の育成実現のために、特別活動、たて割り班活動の充実を目指し、すべての児童が学校を楽しんでいると感じ過ごせるように推進していく。困難に負けない心の育成を図る。 - 読書活動の「家読」(うちどく)などの工夫した取り組みを充実・継続していき、さらなる基礎学力の定着を図る。 - SDGsを踏まえたESDの取り組みを推進し、保護者や地域に分かりやすく発信していく。 <課題について> - 一人も取り残さない教育の実現を目指して、不登校等の諸課題に対する組織的な対応の充実を図っていくこと。 - たてわり班等の特別活動を通して、子供に自信をもって人のために行動できるたくましさを身に付けさせていくこと。 - 学校と保護者が良きパートナーとなって子供の育成に当たれるよう教科担任制を見据えた準備をしていくこと。 - 令和8年度に50周年を迎えるにあたり、地域・世話人会・学運協と連携を取り、計画準備を推進していくこと。
--

以上のとおり報告いたします。

令和7年3月3日

多摩市立東寺方小学校 校長 伊藤 智子

公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立東寺方小学校